

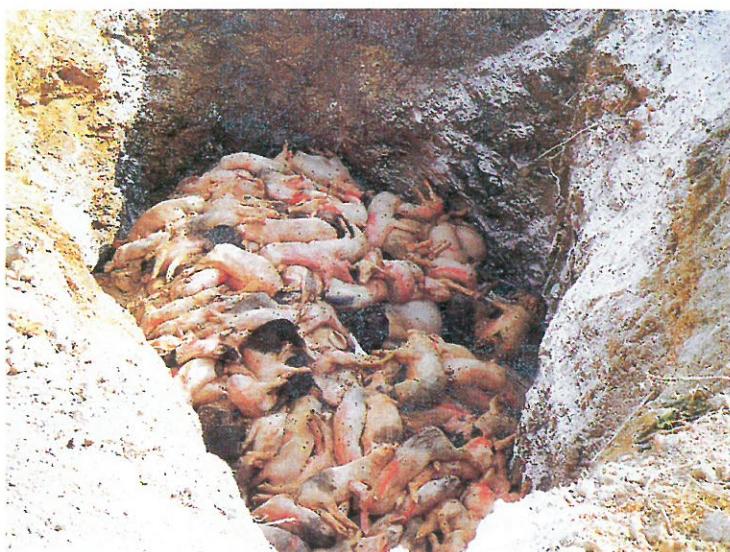
沖縄県における
豚コレラ発生記録

昭和62年 3月

沖 縄 県



豚コレラ発生豚房



殺処分豚の埋却



豚コレラ発症豚



発生豚舎への出入を禁止する立札



死豚



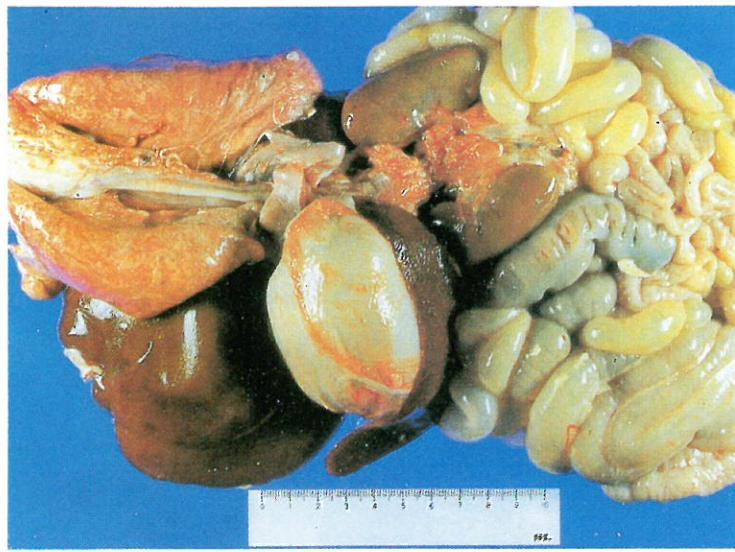
緊急予防注射



剖検所見(外部) ; 症例の多くは、外部所見に乏しく、チアノーゼ及び皮下出血等は認められない。



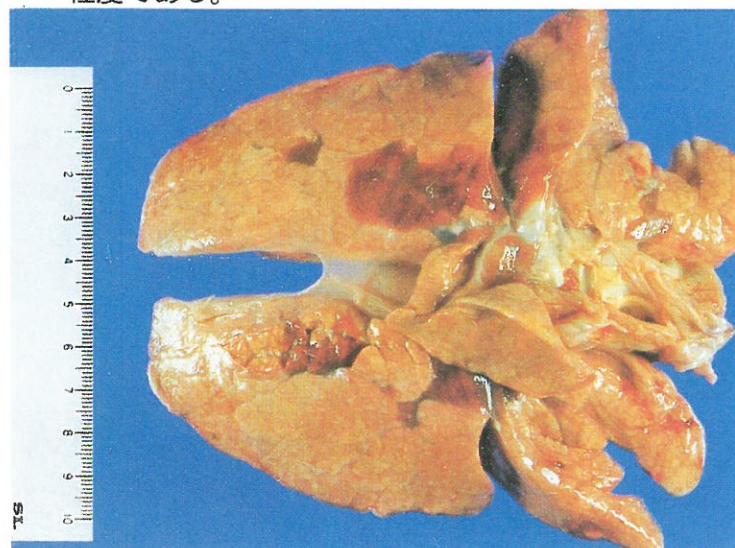
剖検所見(頭部) ; 頭部のリンパ節(耳下腺リンパ節)は著しく腫大し、辺縁性の出血性病変を認める。比較的共通した所見である。



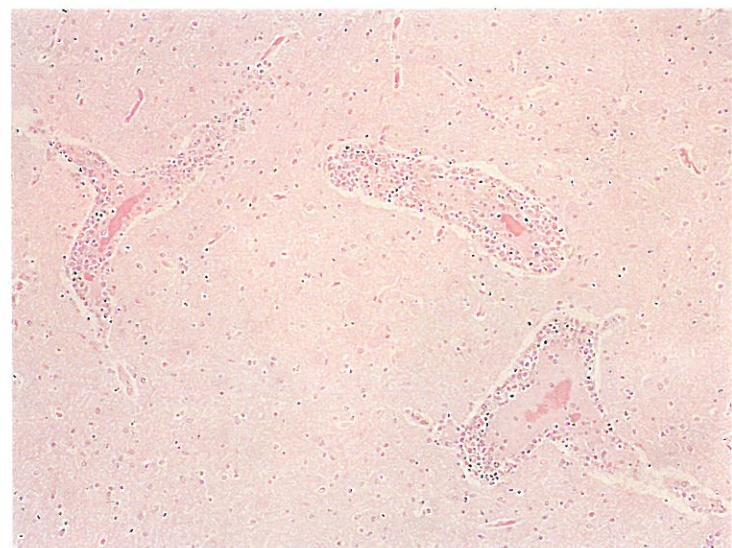
剖検所見(内臓) ; 症例の多くは内部所見に乏しく、各臓器及び付属リンパ節の軽い腫脹を認める程度である。



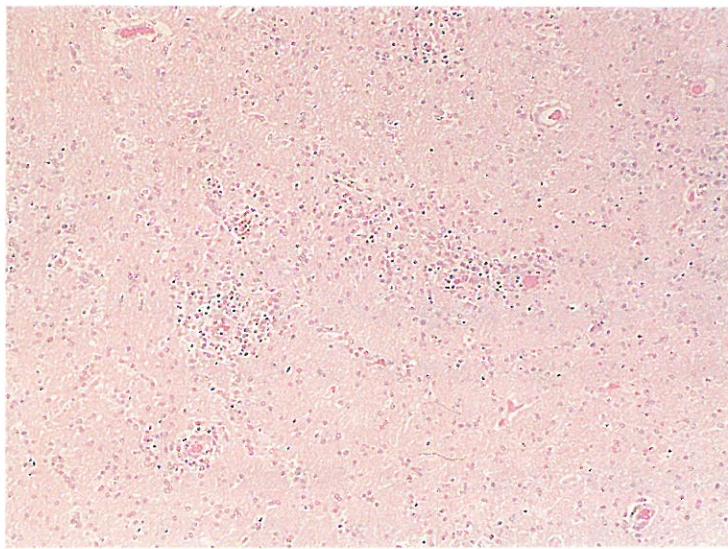
剖検所見(脾) ; まれに暗赤色の隆起(出血性梗塞)を認める。



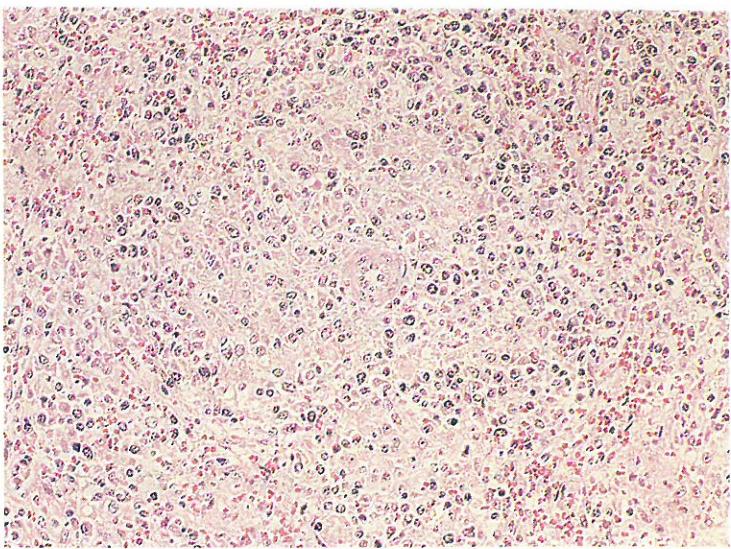
剖検所見(肺) ; 症例の多くは、肺炎を併発し、前葉を中心にして肝変化や肉芽腫性病変を形成。



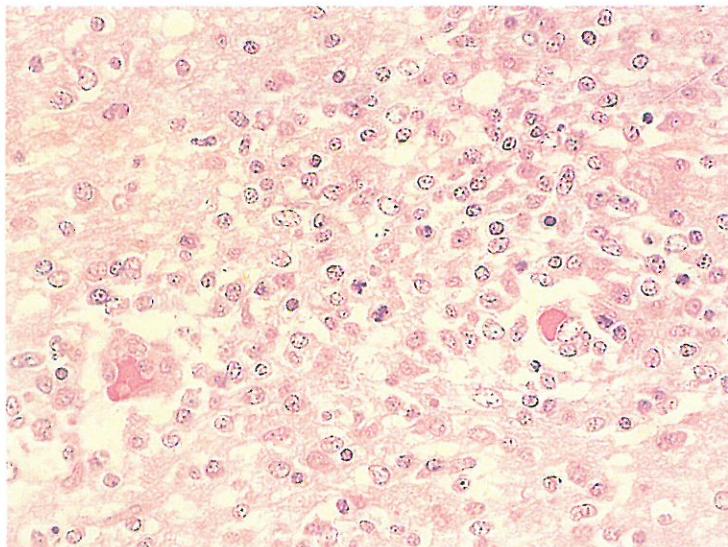
組織所見(大脳、弱拡大) ; 著しい囲管性細胞浸潤を認めた非化膿性脳炎像。



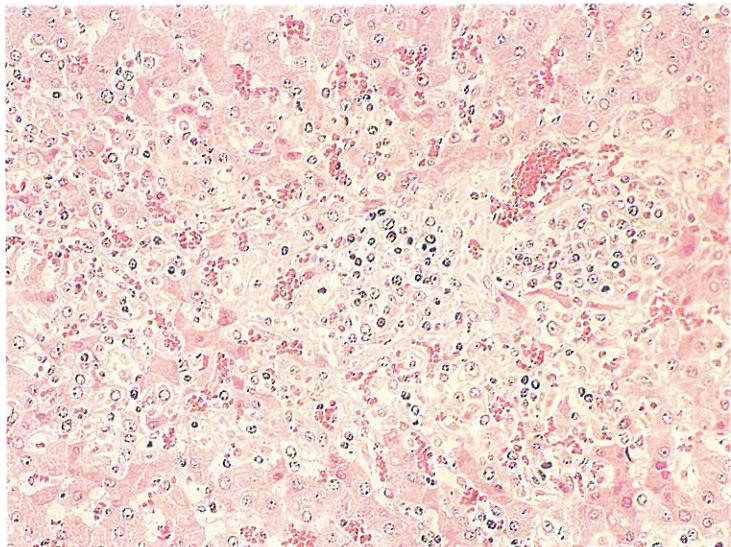
組織所見(大脳、弱拡大)；囲管性細胞浸潤の他、
グリア細胞の増殖を伴った非化膿性脳炎像



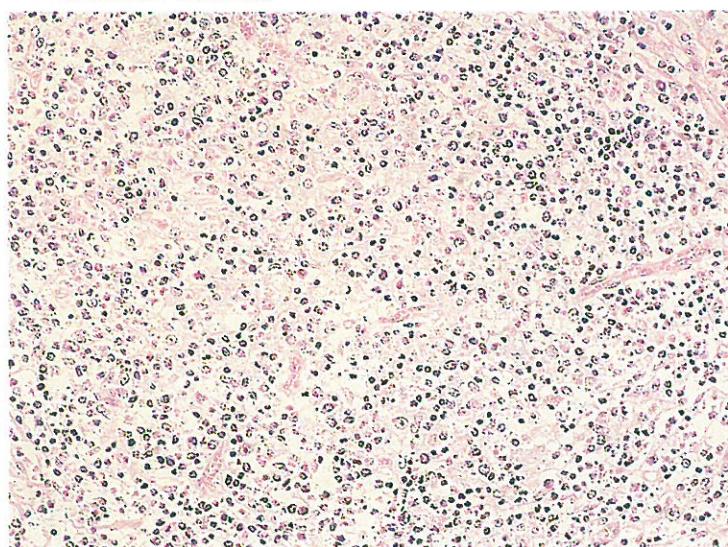
組織所見(脾、中拡大)；リンパ濾胞のリンパ球は
消失し、網内系の細胞が置換。



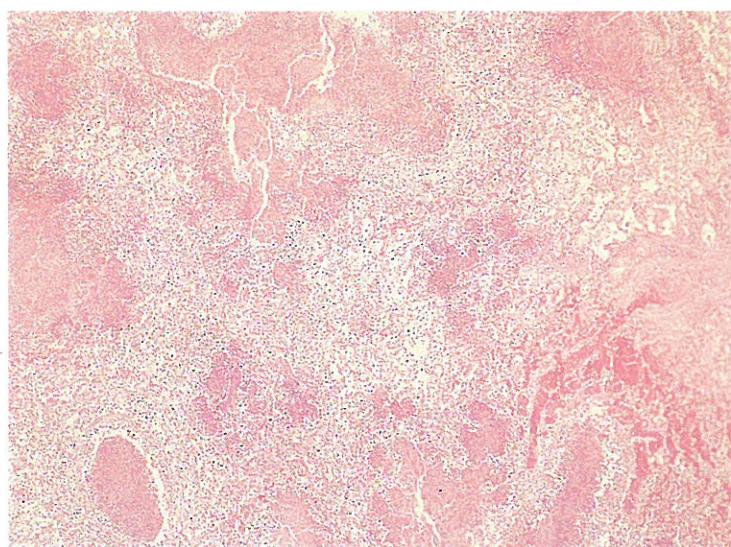
組織所見(大脳、中拡大)；リンパ性細胞、プラズマ細胞及び骨髄系細胞による囲管性細胞浸潤と核分裂及び核崩壊。



組織所見(肝、中拡大)；肝細胞の不全壊死、骨髓系細胞の浸潤及びR E Sの活性化。



組織所見(扁桃、中拡大)；リンパ濾胞のリンパ球の壊死、消失。



組織所見(肺、弱拡大)；多くの症例に認められた
化膿性気管支肺炎像。

発刊によせて

本県における養豚業は、近年豚肉需要の増加を背景に順調な発展を続けてまいりました。

昭和47年末には飼養頭数183千頭、飼養戸数15,700戸、年間肉豚と殺頭数236千頭でありましたが、昭和61年末には飼養頭数327千頭、飼養戸数1,920戸、年間肉豚と殺頭数493千頭と進展をみております。

復帰後は、生産基盤の整備や優良種豚の導入事業等を積極的に実施したため、飼養規模の大型化、集団化、あるいは専業化が進んで1戸当たり平均飼養頭数は166頭という規模に急伸展してまいりました。

このような中で豚の伝染病の発生は飼養農家の衛生意識の向上もあって散発的に発生をみるだけで比較的平穏に推移してまいりました。しかしながら昭和61年度には清浄化地域と思われた本県に豚コレラが21年ぶりに発生し、防疫衛生関係者を震撼させるとともに、初動防疫のあり方や感染経路の究明等に一石を投じることとなりました。

かえりみますと過去永い間、豚コレラの発生がなく、県や関係市町村あるいは、飼養農家の方々も含めてお互いに気の緩みのあったことは否めない事実であります。

本病の発生は、養豚農家にとって最大の脅威となる疾病の一つであり、これが常在化すれば養豚経営は極めて大きな損失を蒙ることになります。

従いまして常日頃から豚コレラ予防にあたっては、まず予防注射、消毒等の徹底を図り、防疫衛生関係機関との緊密な連携、異常豚の早期発見や豚舎への出入りの制限等に気を配ることが必要不可欠であります。

幸いに関係機関の昼夜を徹しての防圧対策が被害を最少限に止め、農家の再生産への意欲がそがれることもなく推移したことは不幸中の幸いがありました。

いずれにしましても、今回の豚コレラの発生は今後の養豚経営に大きな教訓を残したものと思われます。

本誌は、豚コレラの脅威を再認識するうえで発生時の記録ができるだけ明記し、将来、防疫衛生にたずさわる関係者に対して少しでも参考になればと思い発刊したものであります。

この冊子が活用され、今後の養豚振興のお役に立てば幸いに存じます。

昭和62年3月

畜産課長 伊波 寛侑

目 次

I.	発生概要	1
	北部地区	1
	中南部地区	4
II.	発生の経緯及びその対応	7
III.	病性鑑定の経過	10
IV.	防疫措置	14
	1. 告 示	14
	2. 発生速報	18
	3. 犯処分・埋却	38
	4. 豚コレラ緊急対策要領及び所掌事務	48
	5. 防疫対策会議・協議会	56
	6. 緊急予防注射	57
	7. 消 毒	60
	8. と場直行証明書	61
	9. 豚コレラ発生詳細報告(北部地区)	65
	10. 豚コレラ発生詳細報告(中南部地区)	71
V.	疫学調査	76
VI.	手当金・負担金	
	へい殺畜等手当金交付申請書	83
	焼却(埋却)費負担金交付申請書	83
	埋却の経費	84
	埋却証明書	85
	動物評価具申書	86
	評価額算定基準(豚)	88
VII.	防疫対策上の反省点と今後の改善策	89
VIII.	マスコミ報道・提言・印象記	
	新聞記事抜粋	93
	豚コレラについて村内の対応	饒平名知市.....114
	21年ぶりの発生をみた豚コレラについて	稻福菊太郎.....115
	豚コレラ迅速診断と対応の一助に	高坂嘉孝.....116
IX.	第13回沖縄県家畜保健衛生業績発表会集録抜粋	
	管内に発生した豚コレラ防疫対策	久田友次、他.....119

豚コレラ診断について一考察	金城英企、他	125
X. 沖縄県における豚コレラの防疫史	宇良宗輝	129
XI. 参考資料		
豚コレラの発生について		137
第36回九州・山口病性鑑定研修協議会		138
家畜等の移動制限措置の状況		139
全国の豚コレラ発生状況		140
緊急予防注射に従事した家畜防疫員名簿		140
地区別市町村別豚飼育頭数		142
豚コレラ予防注射実績(昭和61年度)		143
都道府県の豚コレラ等予防注射手数料		144
市町村における豚コレラ予防注射補助率一覧表		145
農林水産部畜産課組織図		146
沖縄県北部家畜保健衛生所組織図		147
沖縄県中央家畜保健衛生所組織図		148
沖縄県家畜衛生試験場組織図		149
豚コレラに於ける血液変化の診断的価値	浦崎賢功	150